

特集

2019年度 大学入試を振り返る

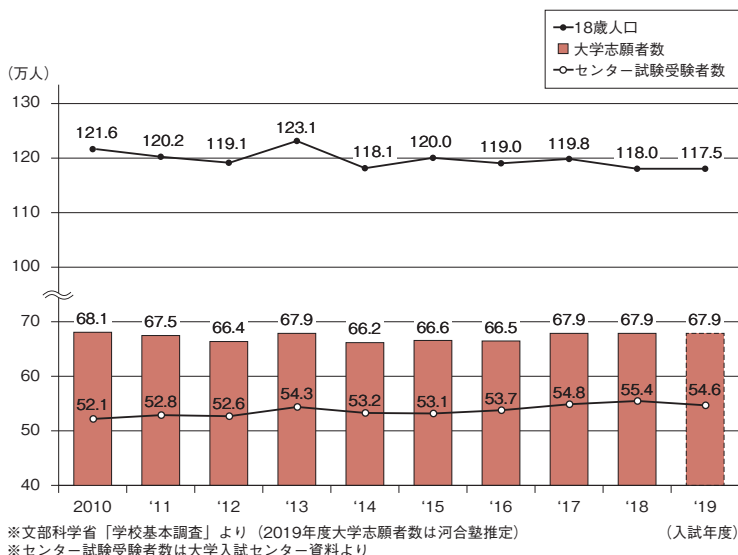
本誌4・5月号では、2019年度入試の速報として大学入試センター試験（以下、センター試験）の概況と国公立大、主要私立大の出願状況についてお伝えした。

このたび、全国の高等学校の先生方にご協力いただき、約211万件の貴重な入試結果調査（合否）データを集めることができた。また、各大学からも最終的な入試結果資料を送付いただいている。本誌ではこれらの集計結果を踏まえ、2019年度入試を総括する。なお、個々の大学の入試結果については18ページ以降に掲載しているので是非ご活用いただきたい。

受験人口の変化

● 18歳人口は微減も2019年度入試の大学志願者数は前年並み

【図表1】 18歳人口と大学志願者数の推移



2019年度は18歳人口が前年から約5千人減少したが、大学志願者数は前年並みであったと推定される【図表1】。志願者の内訳をみると、現役生はわずかに減少、既卒生は増加したと考えられる。既卒生の増加は、2018年度の私立大入試が入学定員管理の厳格化により厳しい入試となったことによるものである。

センター試験の受験者数も前年比99%と前年並みとなった。今春はセンター試験の受験率（受験者／志願者）が前年よりダウンした。私立大入試の難化により、推薦入試やAO入試を活用した受験生が例年以上に多かったことが要因の一つだろう。科目別平均点をみると、英語（リスニング）、国語で平均点がアップし、河合塾の推定するセンター試験7科目型平均点は文系型、理系型ともに上昇した。

国公立大学

● 国公立大人気は堅調

前期・後期日程の志願者数は前年並み、中期日程は増加

【図表2】 国公立大入試結果 全体概況

日程	志願者数 (A)					合格者数 (B)					倍率 (A/B)		
	17	18	19	18/17	19/18	17	18	19	18/17	19/18	17	18	19
前期	258,918	257,863	258,540	100%	100%	91,336	91,075	91,177	100%	100%	2.8	2.8	2.8
中期	27,637	29,604	31,687	107%	107%	4,735	4,827	5,077	102%	105%	5.8	6.1	6.2
後期	184,221	178,237	179,613	97%	101%	23,987	23,451	22,524	98%	96%	7.7	7.6	8.0
全体	470,776	465,704	469,840	99%	101%	120,058	119,353	118,778	99%	100%	3.9	3.9	4.0

※5月27日現在、河合塾調べ

【図表2】は国公立大の直近3年の入試結果である。国公立大一般入試のメインとなる前期日程は前年並みの志願者となった。センター試験受験者数は前年比99%であったことから、国公立大の人気は堅調であったといえる。大学別にみると、前年低倍率だった大学やセンター試験を少数教科で受験可能な文系学部で志願者の増加が目立った。センター試験を3教科以下で受験できる文系学部の多くは平均点アップした英語（リスニング）、国語の比重が高いため、センター試験で得点できた科目をいかにせる大学を選択

した受験生が多かったものと推測する。

後期日程は一部の大学で後期日程を廃止・縮小したことにより、募集人員が400名近く減少した。それにもかかわらず、志願者は前年比101%となっており、今春は後期日程まで諦めずに出願した受験生が前年より多かったことがうかがえる。

【図表3】 中期日程を新規実施した大学の入試結果

大学	学部—学科	日程	募集人員	志願者数	受験者数 (A)	合格者数 (B)	実質倍率 (A/B)	備考
公立小松	国際文化交流	中期	30	432	213	57	3.7	2019年度入試より中期日程を実施
	生産システム科学	中期	20	303	127	43	3.0	
	保健医療—看護	中期	8	267	100	10	10.0	
公立諏訪東京理科	保健医療—臨床工	中期	5	128	52	17	3.1	
	工—情報応用工	中期	24	484	274	32	8.6	
兵庫県立	工—機械電気工	中期	24	439	234	102	2.3	
兵庫県立	社会情報科学	中期	20	674	375	33	11.4	2019年度新設学部
新見公立	健康科学—地域福祉	中期	5	163	80	9	8.9	2019年度新設学科

※5月27日現在、河合塾調べ

一部の公立大で実施される中期日程は、志願者数が前年比107%と増加した。これは新たに中期日程を実施した大学の影響が大きい。今春は、公立小松大、公立諏訪東京理科大、兵庫県立大（社会情報科学）、新見公立大（健康科学—地域福祉）で新規実施された【図表3】。中期日程は志願者が集まりやすいものの、前期日程合格者が受験を取り止めることから、実質倍率（受験者／合格者）が高倍率になるところは少ない傾向にある。しかし、中期日程で唯一の看護学科である公立小松大や模試時に人気系統であった情報分野の兵庫県立大（社会情報科学）は高倍率の入試となった。

●文系では「文・人文」「社会・国際」学系で志願者増加
理系では「工」「医・歯・薬・保健」学系の志願者減少が目立つ

【図表4】 国公立大（前期日程）学部系統別入試結果

学部系統	志願者数 (A)					合格者数 (B)					倍率 (A/B)		
	17	18	19	18/17	19/18	17	18	19	18/17	19/18	17	18	19
文・人文	22,649	22,058	23,262	97%	105%	8,309	8,126	8,110	98%	100%	2.7	2.7	2.9
社会・国際	12,918	13,957	14,739	108%	106%	4,448	4,952	5,009	111%	101%	2.9	2.8	2.9
法・政治	13,955	13,655	13,995	98%	102%	5,107	4,946	4,801	97%	97%	2.7	2.8	2.9
経済・経営・商	27,300	28,933	28,438	106%	98%	10,309	9,920	9,900	96%	100%	2.6	2.9	2.9
教育—教員養成課程	19,873	19,345	19,181	97%	99%	8,169	8,052	8,023	99%	100%	2.4	2.4	2.4
教育—総合科学課程	2,726	2,298	2,486	84%	108%	992	920	921	93%	100%	2.7	2.5	2.7
理	14,680	14,614	15,433	100%	106%	5,833	5,731	5,895	98%	103%	2.5	2.5	2.6
工	69,632	69,788	68,187	100%	98%	25,317	25,456	25,437	101%	100%	2.8	2.7	2.7
農	16,868	16,025	16,455	95%	103%	6,226	6,279	6,316	101%	101%	2.7	2.6	2.6
医・歯・薬・保健	39,857	38,534	37,851	97%	98%	11,390	11,344	11,375	100%	100%	3.5	3.4	3.3
医	18,093	17,064	16,390	94%	96%	3,796	3,796	3,741	100%	99%	4.8	4.5	4.4
歯	1,842	1,836	1,824	100%	99%	493	479	477	97%	100%	3.7	3.8	3.8
薬	3,076	2,948	2,859	96%	97%	842	869	883	103%	102%	3.7	3.4	3.2
看護	11,274	11,260	11,256	100%	100%	4,228	4,216	4,291	100%	102%	2.7	2.7	2.6
医療技術・他	5,572	5,426	5,522	97%	102%	2,031	1,984	1,983	98%	100%	2.7	2.7	2.8
生活科学	2,341	2,707	2,612	116%	96%	789	869	904	110%	104%	3.0	3.1	2.9
芸術・スポーツ科学	7,837	7,526	7,502	96%	100%	1,694	1,698	1,698	100%	100%	4.6	4.4	4.4
総合・環境・情報・人間	8,282	8,423	8,399	102%	100%	2,753	2,782	2,788	101%	100%	3.0	3.0	3.0
全体	258,918	257,863	258,540	100%	100%	91,336	91,075	91,177	100%	100%	2.8	2.8	2.8

※5月27日現在、河合塾調べ
※学部系統の分類は河合塾による

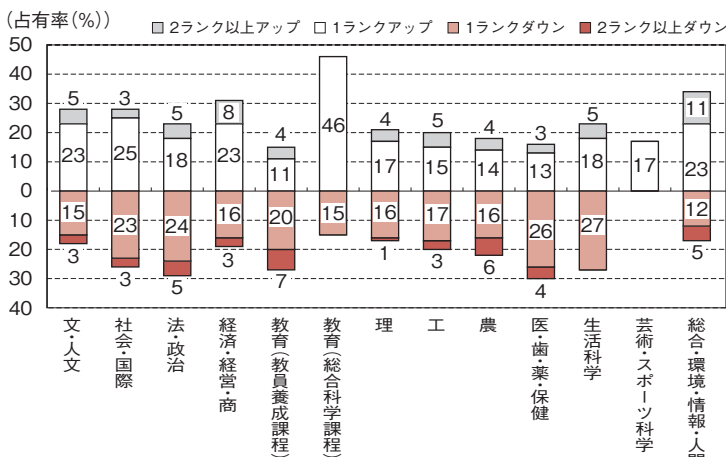
【図表4】は国公立大前期日程の学部系統別の入試結果である。近年続いてきた「文高理低」の傾向に変化がみられた。文系学部では「文・人文」「社会・国際」学系での志願者増加が目立った。両学系とも合格者は前年並みであったため、倍率は上昇した。一方、「経済・経営・商」学系は3年連続で志願者が増加していたことが敬遠された結果、やや減少した。

理系学部では、「理」「農」学系で志願者が増加し、「工」学系で減少した。志願者が増加した理学系の倍率は前年の2.5倍から0.1ポイントアップした。

「医・歯・薬・保健」学系は、「看護」「医療技術」を除き志願者が軒並み減少。なかでも「医」は前年比96%と減少率が高く、5年連続での志願者減となった。倍率も4.8倍→4.5倍→4.4倍と年々低くなっているが、国公立大全体と比べると依然として高倍率である。

「総合・環境・情報・人間」学系では、模試時には人気が高かった「情報」分野は前年比102%と落ち着いた入試となったが、新設の兵庫県立大（社会情報科学）や昨年度倍率が低かった大学などで志願者が集まった。

【図表5】 国公立大（前期日程）2次ランク アップ・ダウン状況



※2次ランク：2次試験の入試難易度について、合格可能性50%となる偏差値帯を17区分で設定したもの

【図表5】は、2019年度入試結果調査データを基に河合塾が設定した、2次ランクアップ・ダウン件数の占有率を系統別に表したものである。

文系では、志願者が増加した「文・人文」「社会・国際」学系で3割近い募集区分が難化した。「文・人文」学系でランクアップした大学は、北海道大（文）、東北大（教育）、名古屋大（教育）などであった。

理系では、志願者が減少した「医・歯・薬・保健」「生活科学」学系でのランクダウンが目立つ。なかでも、志願者の減少が続く「医」はランクアップよりランクダウンの割合が高く、0ランク（偏差値67.5）以下の募集区分で易化がみられた。

●難関10大学は志願者が減少
東北大、一橋大で減少率が高い

【図表6】 国立難関10大学（前期日程）入試結果

大学	志願者数 (A)					合格者数 (B)					倍率 (A/B)		
	17	18	19	18/17	19/18	17	18	19	18/17	19/18	17	18	19
北海道	5,540	5,833	5,843	105%	100%	2,068	2,065	2,013	100%	97%	2.7	2.8	2.9
東北	4,927	5,242	4,813	106%	92%	1,915	1,880	1,833	98%	98%	2.6	2.8	2.6
東京	9,534	9,675	9,483	101%	98%	3,012	3,014	3,018	100%	100%	3.2	3.2	3.1
東京工業	4,167	4,229	4,222	101%	100%	929	933	940	100%	101%	4.5	4.5	4.5
一橋	2,907	2,935	2,687	101%	92%	872	870	878	100%	101%	3.3	3.4	3.1
名古屋	4,723	4,752	4,736	101%	100%	1,821	1,815	1,818	100%	100%	2.6	2.6	2.6
京都	7,875	7,861	7,511	100%	96%	2,743	2,733	2,722	100%	100%	2.9	2.9	2.8
大阪	7,397	7,867	7,536	106%	96%	3,201	3,153	3,108	99%	99%	2.3	2.5	2.4
神戸	5,971	5,634	5,933	94%	105%	2,020	2,034	2,053	101%	101%	3.0	2.8	2.9
九州	5,190	5,246	5,239	101%	100%	2,164	2,180	2,189	101%	100%	2.4	2.4	2.4
全体	58,231	59,274	58,003	102%	98%	20,745	20,677	20,572	100%	99%	2.8	2.9	2.8

※5月27日現在、河合塾調べ

難関10大学全体の志願者数は、前期日程で前年比98%とやや減少率が高くなった【図表6】。センター試験の平均点アップにより得点率80%を超える層は増加しており、難関大にチャレンジしやすい状況ではあったが、志願者減という動向からは受験生の堅実な出願校選定の様子がうかがえる。

志願者が減少した東北大、東京大、一橋大、京都大、大阪大では一様に倍率が低下した。とくに、一橋大は商学部を除くすべての学部で志願者が減少し、大学全体の倍率は3.4倍から0.3ポイントダウンの3.1倍となった。なかでも志願者前年比78%となった社会学部の倍率は3.8倍から3.0倍と大きくダウンした。しかし、高得点者層に大きな変化はなかったことから、ボーダー得点率は1%ダウンに留まり、2次ランクに変化はなかった。

東京大では、志願者が前年比98%と微減。文科一類を除く全科類で志願者が前年を下回った。文科類では文科一類が前年比106%と3年連続で増加した。センター試験の成績分布をみても得点率95%以上の高得点層の増加が目立った。文科二類、文科三類では志願者は増加しなかったものの、センター試験得点率90%以上の層が増加したことによりボーダー得点率がアップした。その結果、東京大の全科類でボーダー得点率が90%を超えた。理科類では、理科三類は志願者前年比90%と3年連続で減少した。減少率は高かったが、ボーダー以下の層が減少したこと、理科三類が最難関であることに変わりはない。

京都大では、大学全体で前年比96%と減少。文系では文学部、教育学部の志願者が増加しボーダー得点率もアップした。理系では、理学部で昨年志願者が減少した反動から志願者は前年比109%と増加。一方、工学部は全学科で志願者を減らし前年比90%となった。ただし、センター試験の得点率90%以上の高得点層は減少しなかったため難易度に変化はなかった。

東京工業大では、今春入試から類別から学院別募集に変更され、前期日程では第3希望まで選択可能となった。全体の志願者は前年並みであったが、学院ごとに状況が異なった。最も人気が高かった情報理工学院は9.1倍と高倍率であった一方、最も低かった生命理工学院は2.3倍と4倍近い差があった。さらに合格最低点を比較すると、情報理工学院と生命理工学院では得点率に10%差があり、学院間の難易差が大きい入試となった。

私立大学

●志願者数・合格者数ともに増加

【図表7】私立大入試結果 全体概況

	志願者数 (A)					合格者数 (B)					倍率 (A/B)			
	17	18	19	18/17	19/18	17	18	19	18/17	19/18	17	18	19	
全体	3,362,010	3,606,272	3,835,410	107%	106%	920,656	883,477	914,199	96%	103%	3.7	4.1	4.2	
方式別	一般	2,305,657	2,444,332	2,529,160	106%	103%	563,949	539,009	550,186	96%	102%	4.1	4.5	4.6
	センター	1,056,353	1,161,940	1,306,250	110%	112%	356,707	344,468	364,013	97%	106%	3.0	3.4	3.6
期別	一期	3,094,509	3,319,795	3,500,836	107%	105%	863,267	827,309	840,624	96%	102%	3.6	4.0	4.2
	二期	267,501	286,477	334,574	107%	117%	57,389	56,168	73,575	98%	131%	4.7	5.1	4.5

※5月27日現在、河合塾調べ、私立536大学の集計
 ※いずれかの年度データが非公表の学部・学科等については集計対象から除く
 ※過年度の集計には公立大学法人へ移行した大学の数値を含む

私立大一般入試の志願者数（延べ数：以降すべて同じ）は、前年比106%と増加した【図表7】。私立大では2007年度以降、13年連続で志願者数の増加が続いている。

今春入試で志願者数が10万人を超えたのは、東洋大、日本大、法政大、明治大、早稲田大、近畿大の6大学。東洋大を除く5大学では志願者数が減少したものの、近畿大は2年連続の志願者数15万人を超えた。

方式別にみると、一般方式、センター利用方式ともに増加しており、とくにセンター利用方式は前年比112%と増加率が高い。センター試験の平均点が上昇したこともあり、経済的・体力的な負担が軽いセンター利用方式への出願を促したと推測され、センター試験以降に出願できる大学での志願者増加が目立つ。

合格者数については私立大全体で前年比103%、人数にして30,722人の増加となった。2017年・18年と、入学定員厳格化のため合格者数の絞り込みが行われていたが、今春は増加に転じた。

方式別では、一般方式、センター利用方式ともに増加した。いずれの方式も志願者の増加率が合格者の増加率を上回ったため、倍率（志願者／合格者）は一般方式で4.5倍から4.6倍、センター利用方式で3.4倍から3.6倍とそれぞれアップした。

期別にみると、一期は前年並みの合格者数となったが、二期は前年比131%と大幅に増加した。二期入試では、志願者が前年より2割近く増加したが、合格者の増加率がそれを上回ったため、倍率は前年の5.1倍から4.5倍と大きくダウンした。

また、今春入試では東海大（1,321人）、法政大（1,104人）、立教大（1,075人）、近畿大（909人）など追加合格者を1千人近く出した大学もあった。合格者の歩留まり（合格者のうち入学する割合）を予測するのが難しい状況のなか、入学者数の調整を追加合格や二期入試で行おうとする意図が感じられる入試となった。

●志願者は都市部で増加 都市部と地方の倍率格差が広がる

【図表8】私立大 地区別入試結果

地区	志願者数 (A)					合格者数 (B)					倍率 (A/B)		
	17	18	19	18/17	19/18	17	18	19	18/17	19/18	17	18	19
北海道	32,775	33,490	37,827	102%	113%	19,336	20,088	21,051	104%	105%	1.7	1.7	1.8
東北	37,620	35,774	38,050	95%	106%	15,958	16,493	17,849	103%	108%	2.4	2.2	2.1
関東・甲信越(首都圏除く)	43,673	43,701	48,935	100%	112%	17,267	17,388	17,500	101%	101%	2.5	2.5	2.8
首都圏	1,933,590	2,081,635	2,185,177	108%	105%	475,652	449,947	459,335	95%	102%	4.1	4.6	4.8
北陸	21,738	23,595	24,483	109%	104%	9,534	9,713	10,621	102%	109%	2.3	2.4	2.3
東海	297,773	316,001	343,483	106%	109%	100,583	99,683	105,594	99%	106%	3.0	3.2	3.3
近畿	806,623	879,618	952,544	109%	108%	202,888	191,143	200,941	94%	105%	4.0	4.6	4.7
中国	50,344	50,069	51,711	99%	103%	24,280	24,111	24,933	99%	103%	2.1	2.1	2.1
四国	10,981	11,103	11,146	101%	100%	6,150	5,931	5,876	96%	99%	1.8	1.9	1.9
九州	126,893	131,286	142,054	103%	108%	49,008	48,980	50,499	100%	103%	2.6	2.7	2.8
全体	3,362,010	3,606,272	3,835,410	107%	106%	920,656	883,477	914,199	96%	103%	3.7	4.1	4.2

※5月27日現在、河合塾調べ、私立536大学の集計
 ※いずれかの年度データが非公表の学部・学科等については集計対象から除く
 ※過年度の集計には公立大学法人へ移行した大学の数値を含む

【図表8】は私立大の地区別の入試結果。志願者の増加数が多いのは、首都圏、東海、近畿の三大都市圏だ。依然として都市部の大学で志願者を集めている様子が見え、首都圏の増加率は東海、近畿の2地区よりも鈍くなっている。後述するが、首都圏の難関大で志願者は減少しており、その影響が大きい。

合格者数は四国を除くすべての地区で増加した。首都圏の合格者数は前年比102%と私立大全体の増加率を下回っており、倍率

は前年の4.6倍から4.8倍にアップした。近畿地区も4倍台後半で高止まりしている。一方、他地区は2~3倍となっており、都市部と地方の倍率格差はさらに広がる結果となった。私立大全体の倍率は4.2倍と高いものの、地方ではその高倍率を感じられないのではないだろうか。

●近年続いた文高理低はみられず
理・工学系は志願者増、医療系は不人気

【図表9】私立大 学部系統別入試結果

学部系統	志願者数 (A)					合格者数 (B)					倍率 (A/B)		
	17	18	19	18/17	19/18	17	18	19	18/17	19/18	17	18	19
文・人文	614,317	673,645	719,267	110%	107%	178,336	171,214	175,072	96%	102%	3.4	3.9	4.1
社会・国際	347,615	384,646	417,500	111%	109%	91,326	83,793	86,784	92%	104%	3.8	4.6	4.8
法・政治	263,925	280,246	295,759	106%	106%	70,405	65,950	66,308	94%	101%	3.7	4.2	4.5
経済・経営・商	682,900	765,910	812,626	112%	106%	166,424	152,448	157,383	92%	103%	4.1	5.0	5.2
理	124,967	127,952	138,333	102%	108%	43,651	42,436	43,632	97%	103%	2.9	3.0	3.2
工	587,908	620,088	679,909	105%	110%	172,643	170,773	179,392	99%	105%	3.4	3.6	3.8
農	103,252	97,402	98,238	94%	101%	27,915	27,793	31,470	100%	113%	3.7	3.5	3.1
医・歯・薬・保健	334,880	338,902	326,996	101%	96%	80,279	80,760	84,249	101%	104%	4.2	4.2	3.9
医	98,311	99,283	92,350	101%	93%	5,341	5,295	6,081	99%	115%	18.4	18.8	15.2
歯	6,463	6,569	7,286	102%	111%	2,596	2,618	2,660	101%	102%	2.5	2.5	2.7
薬	86,283	81,549	75,770	95%	93%	25,053	24,323	24,939	97%	103%	3.4	3.4	3.0
看護	79,464	87,641	86,216	110%	98%	24,698	25,895	26,810	105%	104%	3.2	3.4	3.2
医療技術・他	64,359	63,860	65,374	99%	102%	22,591	22,629	23,759	100%	105%	2.8	2.8	2.8
生活科学	78,687	79,041	78,475	100%	99%	28,622	29,681	30,571	104%	103%	2.7	2.7	2.6
芸術・スポーツ科学	94,338	97,889	101,834	104%	104%	26,967	27,062	26,893	100%	99%	3.5	3.6	3.8
総合・環境・情報・人間	128,869	140,488	166,473	109%	118%	34,073	31,506	32,445	92%	103%	3.8	4.5	5.1
全体	3,361,658	3,606,209	3,835,410	107%	106%	920,641	883,416	914,199	96%	103%	3.7	4.1	4.2

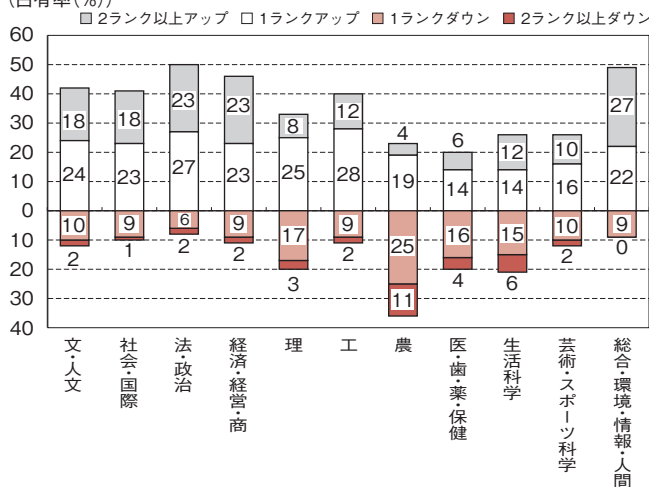
※5月27日現在、河合塾調べ、私立536大学の集計
※いずれかの年度データが非公表の学部・学科等については集計対象から除く
※入試方式により大学計しか公表しない大学があるため、「全体」の数値は他の集計の合計と一致しない

【図表9】は私立大の学部系統別の入試結果。近年続いた「文高理低」はみられない。

文系は、すべての系統で志願者数は増加しているものの、私立大全体と比較すると増加率は決して高くない。一方、理系では「理」「工」学系の志願者増が目立つ。医療系は不人気となっており、「医」「薬」学系では志願者が減少した。「看護」学系は今春入試も学部・学科の新設が相次いだ、志願者は前年並みに留まった。「総合・環境・情報・人間」は前年比118%と高い増加率を示しているが、これは「情報」分野での志願者増の影響が大きい。

合格者数に目を転じると、「芸術・スポーツ科学」を除くすべての系統で増加している。とくに志願者が減少した「医」学系では合格者が前年より1割以上も増えており、倍率は前年の18.8倍から15.2倍と大きくダウンした。医学科ではひと頃に比べ志願者の頭数は減少しており、合格しても辞退する受験生が多かったと推測され、例年以上に追加合格を出す大学もみられた。

【図表10】私立大（一般方式）ボーダーランクアップ・ダウン状況（占有率(%)）



※ボーダーランク：個別試験の入試難易度について、合格可能性50%となる偏差値帯を17区分で設定したもの

【図表10】は私立大のボーダーランクのアップ・ダウン件数の占有率を系統別に表したものである。

文系はいずれの系統もランクダウンよりもランクアップした件数が大きく上回り、4割以上の募集区分が難化した。ただし、アップ件数の多くは5ランク（偏差値55.0）以下の大学であり、1ランク（偏差値65.0）以上の大学ではダウン件数の方が多い。

理系は系統人気を反映しており、志願者が増加した「理」「工」学系はランクアップ、志願者を減らした「農」学系はランクダウンした募集区分が多くみられた。

●難関大では志願者減少
受験生の安全志向が現れる入試に

【図表11】私立大 主な大学の入試結果

大学	志願者数 (A)					合格者数 (B)					倍率 (A/B)		
	17	18	19	18/17	19/18	17	18	19	18/17	19/18	17	18	19
早慶上理	242,620	248,257	241,722	102%	97%	47,520	44,267	43,667	93%	99%	5.1	5.6	5.5
慶應義塾	44,845	43,301	41,875	97%	97%	8,978	8,817	8,797	98%	100%	5.0	4.9	4.8
上智	29,277	31,181	27,916	107%	90%	6,056	5,085	4,765	84%	94%	4.8	6.1	5.9
東京理科	53,515	56,566	60,593	106%	107%	16,559	15,833	15,539	96%	98%	3.2	3.6	3.9
早稲田	114,983	117,209	111,338	102%	95%	15,927	14,532	14,566	91%	100%	7.2	8.1	7.6
MARCH	430,399	465,702	449,134	108%	96%	79,229	71,733	76,351	91%	106%	5.4	6.5	5.9
青山学院	60,966	62,905	60,404	103%	96%	8,064	7,313	8,136	91%	111%	7.6	8.6	7.4
中央	74,029	88,182	92,686	119%	105%	15,857	15,198	17,059	96%	112%	4.7	5.8	5.4
法政	119,206	122,499	115,447	103%	94%	21,181	17,548	17,896	83%	102%	5.6	7.0	6.5
明治	113,507	120,279	111,755	106%	93%	22,854	21,216	22,040	93%	104%	5.0	5.7	5.1
立教	62,691	71,837	68,842	115%	96%	11,273	10,458	11,220	93%	107%	5.6	6.9	6.1
日東駒専	299,891	321,197	327,779	107%	102%	73,468	67,756	68,005	92%	100%	4.1	4.7	4.8
駒澤	41,666	44,815	48,715	108%	109%	9,569	8,550	7,093	89%	83%	4.4	5.2	6.9
専修	44,462	45,761	56,201	103%	123%	9,892	8,437	8,355	85%	99%	4.5	5.4	6.7
東洋	101,180	115,441	122,010	114%	106%	24,674	21,504	23,868	87%	111%	4.1	5.4	5.1
日本	112,583	115,180	100,853	102%	88%	29,333	29,265	28,689	100%	98%	3.8	3.9	3.5
成成明國武	82,676	114,847	118,980	139%	104%	24,706	20,612	19,637	83%	95%	3.3	5.6	6.1
首都圏理系10大学	248,344	264,646	291,124	107%	110%	61,922	63,507	67,480	103%	106%	4.0	4.2	4.3
首都圏女子13大学	68,759	72,138	78,644	105%	109%	24,555	22,868	21,276	93%	93%	2.8	3.2	3.7
関関同立	279,885	291,378	280,227	104%	96%	75,478	67,046	68,506	89%	102%	3.7	4.3	4.1
同志社	56,152	58,596	53,751	104%	92%	16,988	16,143	15,232	95%	94%	3.3	3.6	3.5
立命館	96,126	98,262	94,198	102%	96%	28,142	24,995	27,387	89%	110%	3.4	3.9	3.4
関西	84,586	92,216	93,452	109%	101%	18,006	16,026	16,583	89%	103%	4.7	5.8	5.6
関西学院	43,021	42,304	38,826	98%	92%	12,342	9,882	9,304	80%	94%	3.5	4.3	4.2
産近甲龍	257,664	278,375	288,357	108%	104%	50,004	45,890	51,295	92%	112%	5.2	6.1	5.6
京都産業	43,155	50,562	55,350	117%	109%	8,185	6,118	8,708	75%	142%	5.3	8.3	6.4
龍谷	48,963	51,802	55,444	106%	107%	9,845	9,465	10,366	96%	110%	5.0	5.5	5.3
近畿	146,896	156,225	154,672	106%	99%	27,089	25,837	27,892	95%	108%	5.4	6.0	5.5
甲南	18,650	19,786	22,891	106%	116%	4,885	4,470	4,329	92%	97%	3.8	4.4	5.3
北星学園	2,830	2,851	3,201	101%	112%	1,463	1,455	1,505	99%	103%	1.9	2.0	2.1
北海学園	6,256	6,312	7,082	101%	112%	3,998	4,179	3,955	105%	95%	1.6	1.5	1.8
東北学院	10,541	10,181	10,728	97%	105%	4,023	4,272	4,278	106%	100%	2.6	2.4	2.5
愛知	20,947	22,154	23,238	106%	105%	6,267	6,377	6,887	102%	108%	3.3	3.5	3.4
中京	34,696	37,465	36,490	108%	97%	8,643	8,215	8,443	95%	103%	4.0	4.6	4.3
南山	26,090	25,340	24,801	97%	98%	9,060	7,018	7,285	77%	104%	2.9	3.6	3.4
名城	38,868	38,306	38,845	99%	101%	10,993	11,011	11,727	100%	107%	3.5	3.5	3.3
西南学院	21,571	21,473	22,289	100%	104%	6,336	5,966	5,823	94%	98%	3.4	3.6	3.8
福岡	49,055	48,982	50,287	100%	103%	13,187	12,987	13,295	98%	102%	3.7	3.8	3.8

※5月27日現在、河合塾調べ

※いずれかの年度データが非公表の学部・学科等については集計対象から除く

成成明國武：成蹊・成城・明治学院・國學院・武蔵

首都圏理系10大学：千葉工業・北里・工学院・芝浦工業・東京工科・東京電機・東京都市・東京農業・麻布・神奈川工科

首都圏女子13大学：大妻女子・学習院女子・共立女子・白百合女子・実践女子・昭和女子・聖心女子・清泉女子・津田塾・東京女子・日本女子・東洋英和女学院・フェリス女学院

【図表11】は、各地区の拠点大や定員規模の大きい主な大学の状況をまとめたもの。

「早慶上理」「MARCH」「関関同立」といった難関大グループでの志願者減少が目立つ。2018年度入試が難化したため、模試時点から難関大を敬遠する傾向がみられたが、本番でも同様の動きとなった。一方、難関大に次ぐ「日東駒専」「産近甲龍」では志願者が増加した。また、「首都圏理系10大学」「首都圏女子13大学」なども1割近く志願者を増やしており、受験生の安全志向がうかがえる。

合格者数については、大学により異なるが、ここ2年で定員超過率が大幅に改善されたこともあり、適正化を完了した大学では前年並みもしくは前年以上の合格者を出す大学が見えられた。前年から合格者が大きく増えたのは**青山学院大**（前年比111%）、**中央大**（同112%）、**東洋大**（同111%）、**京都産業大**（前年比142%）などであった。なお、中央大は国際経営学部と国際情報学部を新設した影響が大きく、この2学部を除くと合格者は前年比104%となる。なお、中堅大では志願者が増加しているにもかかわらず、合格者を絞り込んでいる大学もみられ、ランクアップしている大学が目立つ。

2020年度入試情報は河合塾の大学入試情報サイトKei-Netでご確認ください。

Kei-Netでは、2020年度入試の変更点や学部・学科の新増設の状況など、最新の入試情報を掲載しています。

URL = www.keinet.ne.jp/dnj/